

つるばみ

④ 鶴喰地区 (八代市坂本町)

- ◆農家戸数 24戸
- ◆農地面積 35.1ha (うち20haは水田)

未来のために 今できること ~里山に笑顔と安心を~



【中山間農業ビジョンの概要】

集落の課題(現状)

- 農業の魅力不足、若者の地域離れ
- 担い手が地域内で確保出来ない
- 耕作放棄地の増加
- 農産物の販売力不足
- 集落機能の低下、存続の危機

目指す将来像

- 地域特産品の開発と販路開拓
- 農地集積、農業機械の合理的利用
- コメの地域ブランド化
- 高収益作物の導入
- 赤字経営から脱却、農業所得の向上
- 地区外からの担い手受入れ

具体的方策

- 基盤整備(アスパラガス、コメの高品質化と収量増)
- アスパラガスの導入(簡易ハウス整備)
- ブランド米(「鶴喰米」)や加工品の商品化
- 環境保全型農業の取組み(菜の花、レンゲ)
- 農福連携による雇用確保(福祉事業所と連携)
- クラウドファンディングの活用

【ビジョン策定のプロセス】

ビジョン策定以前

- ◆人口減少・高齢化による危機感はすでに共有。
- ◆集落営農(法人化)を模索するも、まとまらず。

- ◆平成27年、農地集積加速化事業重点地域指定が決定。
- ◆同時期に、山村活性化支援交付金事業に採択。

法人設立、米のブランド化、販売戦略への取り組み開始

農事組合法人の設立

- ◆平成29年2月、農事組合法人「鶴喰なの花村」を設立。
- ◆平成29年度、中山間農業モデル地区の設定を受け、「農業ビジョン」策定へ。



農業ビジョンの策定

- ◆平成29年8月、ビジョン検討スタート。
- ◆JA・行政・地域の連携による役割分担。
 - ▶JA:ビジョンの基本設計
 - ▶行政:助成金の情報提供、借入金申請のレクチャー & フォローアップ
 - ▶地域:実務
- ◆ビジョンの検討
 - ▶法人化に向けた集落座談会
 - ▶ブランド米についての現地検討会
 - ▶事業計画・農地集積について検討
 - ▶講演会開催
 - ▶アスパラガス先進地視察
 - ▶フィールドワーク:集落の誇り・宝
 - ▶ビジョン検討会

ビジョンの見直し

- ◆平成29年度、30年度事業計画の実施。
- ◆実績データを比較検討し、計画の変更を実施。
- 〈見直し事例〉
 - ◆ブロッコリーの裏作
 - 1年目は実施したが、2年目は断念。
 - ◆オクラやスナップエンドウ選別や袋詰に手間がかかるため断念。
 - アスパラガス、にんにくへ切り替え。

④鶴喰地区(八代市坂本町) 未来のために 今できること ～里山に笑顔と安心を～

[具体的な取り組み 計画と取組現状]

成果目標(令和3年度):①アスパラガスの作付面積を30a増加 ②環境保全型農業の取組み面積を2haまで拡大

1. 基盤整備などの実施

農作業環境改善・生育環境整備に向けた暗渠排水の設置、土壌改良。

- ◆地中は岩盤であり、暗渠排水整備は困難かつ高コストであることが判明。明渠整備に変更し、水田の畑化を実施。



2. 高収益作物(アスパラガス)の導入

アスパラガスの新植

高収益・低負担のアスパラガスを、平成29～31年度の3期で30aへ。

- ◆1期目10a、2期目さらに10aへ。労働力不足のため、2期で足踏みしているが、今期(令和元年)には150万円の売上を達成。

3. 米のブランド化および加工品の商品化に向けた基盤整備

ライスセンター等の整備による米の乾燥・調製の品質向上。

- ◆ライスセンターの整備は完了。請負も含め14haの稼働。20haまでは可能。
- ◆里モン助成金で「米と漬物」の詰め合わせを制作。道の駅で販売し、好評。

4. 環境保全型農業の取り組み

菜の花で土づくり

化学肥料・化学合成農薬の低減。菜の花・れんげの作付と景観保全。



- ◆菜の花・れんげの作付けを実施。化学肥料を低減し、米の食味も向上。
- ◆菜の花の種まきと他の作業が重なる。外部からの人員導入が必要。

5. 農福連携の実施

米の2合パック

障がい者雇用による担い手不足の改善。



- ◆八代市のB型就労支援施設が行うパンの移動販売に、米の2合パック商品の販売を委託中。今後、大学との連携も行う予定。

6. クラウドファンディングの活用

資金調達と情報発信による支援者の拡大、販路拡大など。

- ◆田植えやアスパラガスの作業その他で、時間が取れず、不対応。

[成果と今後の展開方向]

1. 全体的な成果

- ◆アスパラガスは1期目に150万円の売上を達成！にんにくは加工で売値が10倍に！資金繰りは厳しいが、法人経営ならではの展開に期待！
- ◆地元の協力者にお金を渡せる仕組み、小規模ながらも誕生。
- ◆高齢化が進む中、正社員の雇用を実現。
- ◆ぶつかりあいを経て、組合員の意識の変化が生まれる。地域・行政・JAの好連携が、よい結果へ。



アスパラガスの収穫

2. 今後の展開方向

- ◆労働力不足が最大の課題。2人目の正社員雇用を目指す！
- ◆新規就農者に対する補助金の見直し。50歳以上のシニア世代へも補助金の支給を。



米と漬物の詰め合わせ